

【講評】

米子西高校は、「地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する意欲と能力をもった生徒を上級学校に送り出すこと」を教育目標に掲げ、知・徳・体・志のバランスのとれた人材育成のため、学校長のリーダーシップのもと教職員は学校全体で連携してさまざまな教育活動に取り組み、その実現を図っている。

本年度は「チャレンジ米西」のスローガンのもと、重点目標として①自己実現を可能にする学力の向上、②基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立、③安心かつ切磋琢磨できる人間関係の構築、④保護者・地域と連携した活力ある学校づくりを掲げている。

特に、キャリア教育「みらいチャレンジ活動」（総合的な学習の時間を中心とした探究活動）を開始し、「自立する力」と「主体的に取り組む意欲」の育成に力を入れている。

部活動も運動部、文化部とも盛んで、優秀な成績をあげて全国大会への進出もしばしばである。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校長は、鳥取県西部に位置する普通科高校の役割を担い、使命感溢れる教育目標を掲げ、さまざまな取組を遂行している。生徒の郷土愛溢れる学校生活の支援と、その成果を将来に繋げていただきたい。
- ② 学校目標達成のための校務分掌再編は、円滑な学校運営に繋がり、結果として主幹教諭や学年主任の業務が明確化されている。当事者の意識も明瞭である。
- ③ 本年度よりスタートした探究的な活動「みらいチャレンジ活動」は、本校の特色ある活動であり、何より生徒自身の将来へと繋がるキャリア教育である。1年目の今年度の問題点・改良点を来年度以降にいかし、更なる充実を図られたい。
- ④ 「生徒の資質を向上させるためには教職員の資質向上が必要である」という学校長や管理職の考えは共鳴できるものであり、今後も内地留学などの制度を利用して教職員の資質向上に努めていただきたい。
- ⑤ 生徒指導及び特別支援教育において、きめ細やかな対応と指導をされていることから、問題行動の生徒もほとんどなく良好である。中学生にとっても模範となる高校であることを希望する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① アクティブ・ラーニング型授業充実のため、他教職員の授業参観、教職員間の研修会や意見交流会等、自らの範囲に留まることなく、更なる授業の向上に努めていただきたい。
- ② P T A ・保護者などとの交流・連携だけでなく、地域住民との交流・連携などをより積極的に行っていただき、郷土への貢献意識を一層育んでいただきたい。
- ③ 鳥取県西部の歴史的遺産や観光ポイントのアピールは、県の支援も相俟ってその重要性は益々高くなり、米子市は海外からの玄関口として訪問者も増加してくるものと思われる。それに応えるグローバルな感覚や郷土に関する知識を身につけた人材を育成する一層の取組をお願いしたい。
- ④ 国公立大学合格に重点を置いた進路指導は十分に理解できるものの、有力私立大学も地方の優秀な高校生の入学を熱心に勧誘している現状を鑑み、生徒や保護者の要望や個に合ったより一層の指導を推進していただきたい。